

狭山南第三小学校のインタープリテーション

最初のきっかけは「錦織公園春の遠足の下見」に、1年・2年担任の先生を案内したことです。

それから数日後、大阪狭山市立南第三小学校教頭先生からの依頼で、小学校と隣接する陶器山を見させていただきました。“自然がいっぱいの、学校ですが、それを十分に生かされていないので、児童達に自然の不思議、楽しさ面白さを教えて欲しい”と云われました。

私達は学校の校庭のすばらしさを教えることと、隣接する陶器山の一部が火事に遭っているのを、植物の再生の様子を観察することを指導するために、自然観察会と自然の工作を行うことにしました。

この学校には植物の種類も多く、更に陶器山の火事からの再生植物も説明したため、時間が足りないくらいでした。でも、児童の皆さんには十分満足してもらったと確信しています。

大阪狭山市教育委員会編集（2002・4発行）「狭山の学校 ―“開く、拓く” 学校の挑戦」には

1・2年生では生活科で春・秋のそれぞれの季節に大阪環境保全協会に所属するボランティアの方々の協力を得て、陶器山などの自然とのふれあいを通じて、普段何気なく見過ごしている植物の生態の不思議さを見聞し、それについて考え、お話をしたり、カードに書いて発表しました。

この学校をきっかけに大阪狭山市内の幾つもの小学校で観察会を実施しました。

大阪狭山市立南第三小学校1・2・3年生

「自然と遊ぼう」 シニア6期 松田秀雄

2001年5月14日（月）に行われた観察会には90名が参加し、インタープリテーション科の7名のインタープリターが指導にあたりました。

場所は校庭と隣接する陶器山で、二時間と限られた時間でしたが自然観察、山火事の所、工作、草ぶえ等、自然とのふれあいを十分に教えました。

早速、教頭先生より児童の感想文集が届きました。「身近な所に陶器山の豊かな環境がありながら、子供達にそのすばらしさを十分に伝えられない事を歯がゆく思っていました。今回皆様のご支援を頂き子供達に自然のすばらしさ、不思議さ、楽しさを伝えることができ、感謝しています。児童が当日の感動を紙に書きました。拙い文章ではありますが感動や感謝で満ち溢れています。」

3年生（女子）の文章の最後に、きょうはお世話になりました。とてもたのしかったです。また、あいたいです。しぜんってふしぎなんだね。またやりたいです。お元気で。

私たちは、これからも多くに人々に自然の感動を伝えたいと思います。

